

ハンドボールの五輪アジア予選で男子日本代表チームの主将を2度務めた中川善雄さん(36)が8日、一関市立松川小学校5、6年生47人を対象に授業を行った。五輪出場を果たせなかった苦い経験から「今の時期から目標を持ち、夢をかなえてほしい」と児童の将来を応援した。また、ハンドボールの基本を実技指導しながら、運動の大切さを伝えた。

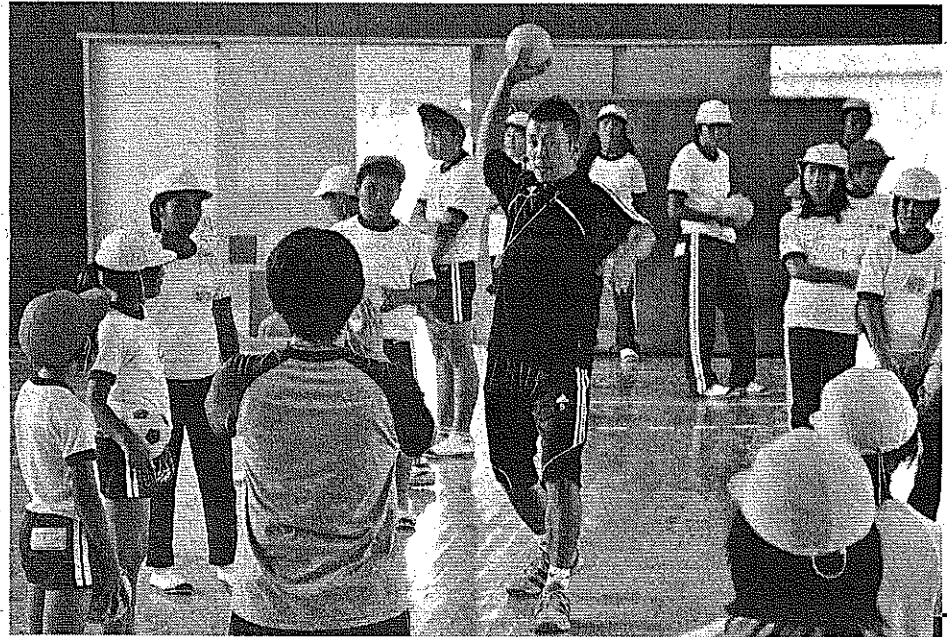
市教委が文部科学省と日本体育協会の「スポーツ選手活用体力向上事業」を導入して実施。体育の授業以外で体を積極的に動かす習慣のない児童がいる現状を踏まえ、スポーツ選手らの指導で運動への興味を持たせようという狙い。

中川さんは現在、自ら発起人となって設立したNPO法人シュータススポーツラボの代表理事を務め、同法人事務所を埼玉県越谷市に置き、スポーツを通じた青少年の健全育成などに取り組んでいる。

アテネ、北京両五輪の予選を「ハンドボールは高校から始めた。自分がもっと早くから目標や夢を持っていたらオリンピックへ行けたかもしれない」と振り返り、「人は目標があるともものすごい力を発揮する。スポーツに限らず自分の好きな分野で目標を持ち、上を目指して感謝の気持ちを忘れず謙虚に日々を過ごしてほしい」と話した。

また、実技では「ゲーム機で遊ぶ時間を少しでも体を動かすことに使って、体を鍛え、友達とのコミュニケーションを図ってほしい」と、キャッチボールやシュートの基本、ミニゲームを指導。ほとんどの児童がハンドボールは初めてといい、夢中になって楽しんでいった。

夢 早くから持って 元ハンド日本代表中川さん 松川小で授業、一関・東山



松川小学校で児童にハンドボールの基本を指導する
中川さん(中央)